

大阪府感染症発生動向調査週報 (速報)

2017 (平成 29) 年 第 28 週 (7 月 10 日～7 月 16 日)

今週のコメント

～ 手足口病～ 警報レベル超え続く。手洗いの励行と排泄物の適切な処理を

定点把握感染症

「手足口病 流行拡大」

第 28 週は前週比 14.9%増の 5,522 例の報告があった。報告の第 1 位は手足口病で以下、感染性胃腸炎、ヘルパンギーナ、A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎、RS ウイルス感染症の順で、上位 5 疾患の定点あたり報告数はそれぞれ 14.4、5.3、2.4、2.4、0.7 である。

手足口病は前週比 31%増の 2,874 例とさらに増加し、南河内 22.1 を筆頭に北河内 17.3、大阪市北部 17.0 と続く。大阪市東部を除くすべてのブロックで定点あたり 10 を超えている。

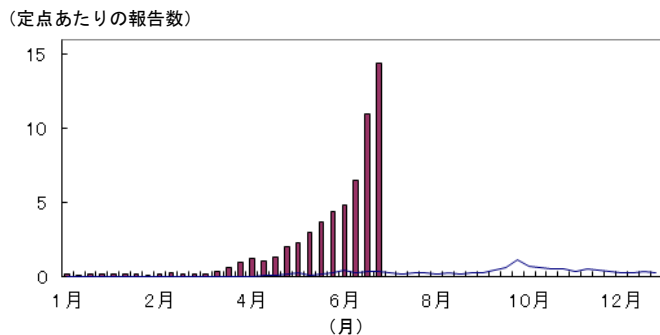
感染性胃腸炎は 7%減の 1,064 例で、中河内 9.9、南河内 8.8、北河内 7.7 の順であった。

ヘルパンギーナは 56%増の 480 例で、9 ブロックで増加した。大阪市北部 5.4、泉州 3.0、北河内 2.9 である。

A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎は 18%減の 478 例で、三島 3.8、豊能 3.2、中河内 3.0 であった。

RS ウイルス感染症は 135%増の 141 例で、大阪市北部 1.9、北河内 1.3、南河内 1.2 である。

手足口病



ヘルパンギーナ

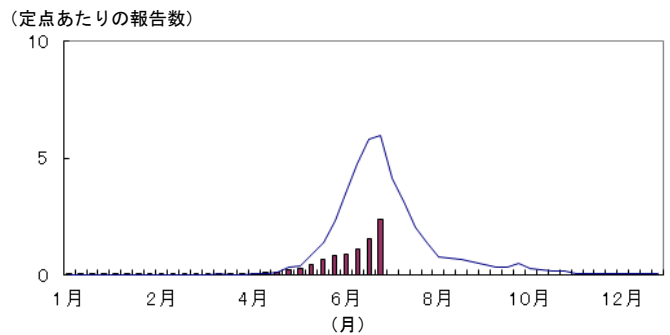


表1. 大阪府小児科定点把握感染症の動向 (2017 (平成 29)年 第 28 週 7 月 10 日-7 月 16 日)

第 28 週 の順位	第 27 週 の順位	感染症	2017 年 第 28 週の 定点あたり 報告数	前週比 増減	2016 年 第 28 週の 定点あたり 報告数	2017 年 第 28 週の 年齢別 患者発生数 最大割合値
1	1	手足口病	14.4	31%増	0.4	1 歳_30%
2	2	感染性胃腸炎	5.3	7%減	4.5	1 歳_18%
3	4	ヘルパンギーナ	2.4	56%増	5.9	1 歳_28%
4	3	A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎	2.4	18%減	2.4	4 歳_15%
5	8	RS ウイルス	0.7	135%増	0.3	1 歳_35%

第 28 週のコメント

～レジオネラ症～ 毎年、大阪府内で 65-80 例程度、全国では 1600 例程度、報告されている

全数把握感染症

レジオネラ症

レジオネラ症は、レジオネラ・ニューモフィラ (*Legionella pneumophila*) を代表とするレジオネラ属菌による細菌感染症である。土壌や水環境に、普遍的に存在する菌である。人工環境（噴水等の水景施設、ビル屋上に立つ冷却塔、ジャグジー、加湿器等）や循環水を利用した風呂から発生した、レジオネラ属菌を含むエアロゾルを吸入することで感染する。ヒト-ヒト感染はない。健常者も罹患するが、細胞性免疫機能が低下している、乳幼児、高齢者など抵抗力の弱い人、喫煙者、大酒家は、重篤化する可能性が高い。

[感染症疫学センターはこちらへ\(外部リンク\)](#)

[感染症の話\(国立感染症研究所\)](#)

(週別報告数)

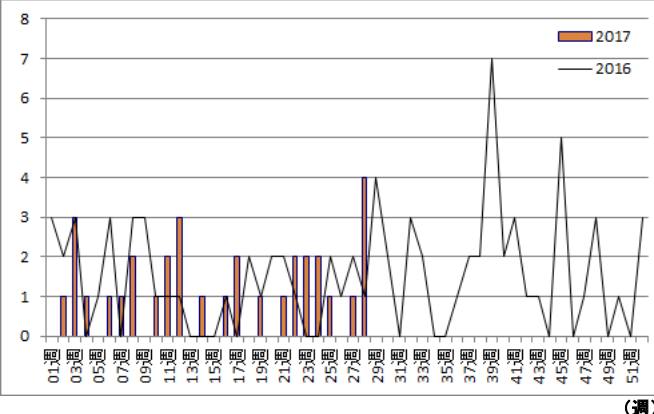


表 2. 大阪府全数報告数 (2017(平成 29)年 第 28 週 7 月 10 日-7 月 16 日)

*) 注意：この週報は速報性を重視しておりますので、今後の調査に応じて若干の変更が生じることがあります

1類感染症	報告はありません
2類感染症 (結核は除く)	報告はありません
3類感染症	腸管出血性大腸菌感染症 3名 (豊能ブロック 2名、大阪市 1名、府内累積報告数 53名)
4類感染症	レジオネラ症 4名 (豊能ブロック 1名、泉州ブロック 3名、府内累積報告数 33名)
5類感染症 (麻しん、風しんは除く)	アメーバ赤痢 1名 (泉州ブロック 1名、府内累積報告数 68名) 侵襲性肺炎球菌感染症 1名 (三島ブロック 1名、府内累積報告数 160名) 梅毒 4名 (豊能ブロック 1名、大阪市 3名、府内累積報告数 375名)
結核 (2017年5月分)	結核 新登録患者数:180名 (内 肺・喀痰塗抹陽性 82名) (府内累積報告数 773名、内 肺・喀痰塗抹陽性 316名)
麻しん、風しん	風しん 2名 (豊能ブロック 1名、大阪市 1名、府内累積報告数 7名)

(2017年7月18日 集計分)